

施策分析シート（平成23年度）

No1

施策名	新産業・新事業の創出支援	施策No	05-02	部課名	産業経済部経営支援課		
				課長名	三枝 直樹		
関連部課名	内線 4 5 5						
行政評価 事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]					
	政策	活力ある地域経済づくり[05]					
目的	区が主体的役割を果たすことで構築する「産学官の顔の見えるネットワーク」を軸とした「荒川版クラスター」の形成をとおして、「新事業やベンチャーの創出」、「既存企業の第二創業や経営革新」を促進し、地域産業の活性化を図る。						
指標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (28年度)	
	① 新製品・新技術開発件数	8	2	2	4	5	MACCプロジェクト参加企業の開発等件数
	② 産学連携研究開発助成件数	0	0	0	1	2	
	③ モノづくり技術向上支援・中小企業技術・経営課題総合相談事業利用企業数	1	5	5	10	20	
	④						
	⑤						
現状と課題 (指標分析)	○区内では、長引く景気の低迷等により事業所の減少傾向が続いているが、区内事業所の約3割を製造業が占めるモノづくりの盛んなまちである。また、都心や筑波研究学園都市とのアクセスが良好な立地環境にあり、日本のモノづくりを支える高度な技術力を持つ企業が集積している。 ○このような荒川区の産業集積や地域資源の豊かさを生かして、荒川区のモノづくりにかかわる企業、大学、研究機関、金融機関、支援機関等による「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を軸とした、技術と知恵を結集した新たな事業を絶え間なく生み出していく「荒川版クラスター」を形成することが必要である。						
今後の方向性	《今までの成果及び指標分析を踏まえて》 ○コーディネータによる継続的な企業訪問や大学等との定期的な連絡会・交流会・シンポジウムの開催等により、「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を図っていく。 ○産学共同による新製品開発を目指す「福祉・介護系新製品開発プロジェクト」など、「荒川版クラスター」の形成に向けた先導的プロジェクトの成果を踏まえ、新たに立ち上げた「特定テーマ研究会」において、短期的・集中的な活動により先行事例を創出する。 ○MACCプロジェクトに関しては、これまでのモノづくり系企業に加え、流通・サービス業などへ支援対象を拡大するとともに大企業・中堅企業との連携を視野に新たな事業展開を進める。						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	荒川版クラスター形成に向けたMACCプロジェクトの推進は、区内産業活性化のためには極めて重要であり、当該施策の優先度は極めて高い。

施策分析シート（平成23年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための分類		分類についての説明・意見等
		21年度	22年度	前年度 設 定	今年度 設 定	
モノづくりクラスター形成促進事業	04-02-05	23,814	15,857	重点的に推進	重点的に推進	荒川区の地域経済活性化のためには、モノづくり産業の集積や地域経済の豊かさを生かした「産学官の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川版クラスター」の形成に向けた取組みが極めて重要。
産学連携推進事業	04-02-06	3,027	1,631	重点的に推進	重点的に推進	MACCプロジェクトを推進し「産学官の顔の見えるネットワーク」を構築するために、大学等が有する専門知識を活用した産学共同による新製品・新技術開発を支援することは極めて重要。
合 計		26,841	17,488			